

講義コード	1315	科目区分	専門教育科目(社会福祉士関連科目)
(フリガナ)	シャカイフクシエンジョギジュツゲンバジッシュウニ	(フリガナ)	ウメキ モトシ ヨコヤマ ジュンイチ
授業科目名	社会福祉援助技術現場実習Ⅱ	担当教員名	梅木 幹司 横山 順一
英文授業科目名	Social work practicum Ⅱ		
基準年次(開講期)	4年次(通年)	履修形態	選択(社会福祉士受験資格取得必修科目)
曜日/時限/講義室	集中		
授業の方法	実習	授業の方法 (詳細情報)	実習中心
単位	4	週時間	120時間(総時間数)
授業のキーワード	多職種連携、アセスメント、支援計画、エンパワメント、アウトリーチ、ネットワーキング		
授業概要・目的	社会福祉援助技術現場実習Ⅱでは、相談援助業務と多職種との連携について理解し、援助技術を学ぶことを目的として実習を行う。また、対象利用者等をアセスメントし、支援計画作成の実際を学び、その能力を習得する。実習担当教員と実習施設における実習指導者と十分に議論を重ね、体験・振り返り・日々の目標設定等を実行して、社会福祉士の援助技術について実践的に学習する。		
到達度評価の 評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助業務と多職種連携について理解する。 ・利用者をアセスメントすることでニーズを把握し、支援計画を立てることができる。 ・相談援助業務の実際と地域における当該実習施設の役割や他機関との連携に関する援助技術を習得する。 		
授業計画			
第1回	実習指導者による指導を受け、相談援助実習指導担当教員による巡回指導を受ける。 「社会福祉援助技術現場実習Ⅱ」では、利用者理解を中心に以下のことについて学習する。		
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 		
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者理解とそのニーズ把握および支援計画の作成 ・利用者やその関係者(家族・親族・友人等)との援助関係の形成 		
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者やその関係者(家族・親族・友人等)への権利擁護および支援(エンパワメントを含む)とその評価 ・多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 		
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解 		
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・事業者・機関・団体等の経営やサービス管理運営の実際 ・当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしての 		
第7回	アウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解		
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			
教科書・参考書等	「ソーシャルワークハンドブック」至誠館大学		
授業で使用する 機器等			
予習・復習への アドバイス	実習Ⅰでの課題や反省を生かすこと。一日の目標について前日に計画しておくこと。 日々の観察や記録を怠らないこと。		
履修上の注意・ 受講条件等	社会福祉士受験資格取得を希望する人は必ず履修してください。 先修要件科目のため、社会福祉援助技術現場実習Ⅰの単位認定された者以外の履修はできません。		
成績評価の基準等	120時間以上(15日間)の勤務時間数の確保が最低条件。 実習計画、実習期間中の取り組み姿勢、実習日誌、自己評価、実習のまとめ、実習指導者評価等を総合的に判断して評価を行う。		
メッセージ	社会福祉士として実際に施設等で勤務することを想定して、また意識して実習に臨んでください。実習先からは、実習生ではあるが、社会人として見られています。		
オフィス・アワー	発表掲示後は、気軽に訪問してください。		
その他			